

# 着付け師のライフヒストリー

松本 歩美

(渡部 圭一ゼミ)

## 目 次

はじめに

第1章 問題の所在

—なぜ現代の着付け師をとりあげるのか

第1節 着物と着付け師

第2節 調査の方法

第2章 着付け師の経歴

第3章 着付け師の語り

第1節 着付け師として生きる喜び

第2節 着付け師の実務

第3節 着付け師が創る学びの場

第4節 着付け師の挑戦と成長

第4章 創作結びについて—自作アルバムを読む

第1節 アルバム作りのきっかけ

第2節 アルバムにみる恵子さんの自己表現

第3節 初めての創作結び

第4節 創作結びの技術とバリエーション

第5節 創作結びから発信する着物文化

おわりに

## はじめに

幼い頃、祖母の家には多くの着物や浴衣があり、その鮮やかな色彩や繊細な柄に心を奪われた記憶がある。また、七五三や十三参りといった人生の節目では、祖母が自ら手をかけて着付けをしてくれた。その瞬間ごとに、着物をまとうことで特別な気持ちになり、同時に祖母の手際よい動きや真剣な表情に感動を覚えた。このような経験を通じて、着物文化は私にとってただ美しいだけでなく、家族の絆や思い出を深める重要な存在となっていた。さらに、祖母が着付け師として日々仕事に向き合う姿を間近で見ていたことも、着物を支える「技術」への興味を芽生えさせた大きな要因である。着物に関する研究や議論は数多く存在する。し

かし、それを実際に着る人の身体や個性に合わせ、現代の生活の中で生かす「着付け師」という存在についての研究や記録は驚くほど少ないことに気づいた。特に、人によって変わる着付けの魅力に気づいたことが本研究の出発点の一つである。着付けは一見画一的な技術に見えるが、実際には着る人の体型、雰囲気、用途に応じて細やかに調整され、全く異なる仕上がりを見せる。着付け師の手を通じて、伝統的な装いが個々人の個性を引き立て、また新しい表現が生み出される過程に強く惹かれた。

また、着付け師は単なる技術者ではなく、伝統と現代のファッションをつなぐ担い手としての側面も持つ。着物の伝統的な美意識を守りつつ、現代のライフスタイルや感性に合った新しい着こなしを提案する彼らの役割は、時代とともに変化する着物文化を支える重要な要素である。このような着付け師の多面的な役割に注目し、彼らが日本文化の中で果たしている意義を探りたいと考えたことが、本研究の背景である。

本研究では、着付け師の技術や創意工夫、そしてその背景にある文化的意義に焦点をあてることで、着物文化を支える新たな視点を提供することを目指す。さらに、着付け師という存在を通じて、伝統と現代をつなぐ着物の可能性を考察し、着物文化の継承や発展に寄与する一助となることを目指す。

## 第1章 問題の所在

### —なぜ現代の着付け師をとりあげるのか

#### 第1節 着物と着付け師

日本の伝統衣装である着物は、平安時代から現代に至るまで形や役割を変化させながらも、日本文化を象徴する存在として受け継がれてきた。現在でも、冠婚葬祭や特別な行事において着用され、

生活に根付く伝統の一端を担っている。とはいえ冒頭にも述べたように、「着付け師」という存在が正面からとりあげられる機会は、これまで非常に乏しかったといえる。そのことを以下に例示しておきたい。

着物に関する一般向けの書籍は数多く出版されている。その全体像を示すことはできないが、たとえば『和服がわかる本』<sup>1</sup>では、着物に関する幅広い知識を網羅しており、着物の歴史、着用時のマナーや立ち振る舞い、人生の節目や年中行事との関わりといったことが詳述されている。また、素材や生地の特徴についても触れられており、和服文化を理解する上での基礎知識を提供している。

おなじように『ようこそきもの世界へ An Introduction to Kimono』<sup>2</sup>も、着物文化について多岐にわたる知識をまとめている。本書では、時代によって移り変わる着物の流行や、女性の小袖における変遷について詳述されているほか、絞り染めや刺繍、友禅染といった染色技法についても触れられている。また、帯留めやかんざしなど、きものを引き立てる総身具についても細かく解説されている。

このような同時代的な解説に対して、より歴史的な視点で編まれた研究も多い。代表的なものとして『日本服飾史 女性編』<sup>3</sup>は、日本の服飾文化における女性の装いに焦点をあて、古代から近代に至るまで、日本の女性が身に着けてきた衣服の変遷や特徴を時代ごとに詳しく解説する内容である。同書では、宮廷文化や庶民の生活、儀礼や祭礼など、さまざまな場面における女性の服装に関する記録や考察が豊富に掲載されている。特に、女性の服飾がどのように社会的地位や役割と結びついてきたか、また時代の価値観や美意識をどのように反映していたかを知ることができる。

やはり歴史的な視点を取り入れたものとして、『きもの—日本の服飾図譜 平安から現代まで』<sup>4</sup>のように、平安時代から現代に至るまでの日本の伝統的な衣装である「きもの」の変遷を詳しく解説した書籍もある。同書は、着物の歴史やデザインの変化、社会や文化との関わりを時代ごとにまとめており、特に視覚的な資料としても優れている。

同じく『素晴らしい装束の世界 いまに生きる千年のファッション』<sup>5</sup>は、日本の伝統的な装束

文化をテーマに、千年以上にわたる歴史や美意識を現代に伝えることを意図した書籍である。特に平安時代から続く宮廷文化の装束を中心に、そのデザインや色彩、構造について詳しく解説されている。同書では、装束が持つ象徴的な意味や美学的な価値、さらにはその製作技術や素材に至るまで、幅広い視点から装束の魅力を掘り下げている。また、現代の文化や芸術に装束がどのように影響を与えているかについても言及されており、伝統文化が持つ普遍的な価値を再認識させる内容となっている。

以上のように、着物やその歴史に関する研究、さらにそれに立脚した解説書などは多いものの、それを日常の中で形にする「着付け師」に焦点を当てた研究は見出せない。とはいえ着付け師は、単に着付けを行うだけでなく、着物の美しさを引き出し、着用者の個性を表現するための重要な役割を担っている。その意味では確実に着物文化を継承する主体のひとつとなっているといえる。

こうした問題意識をもとに、本研究では現在も活躍するひとりの着付け師に注目することにした。その経歴を詳しくたどり、その活動の実態をくわしく報告することで、これまで十分に上げられてこなかった着付け師の意義を示すことを課題とする。

## 第2節 調査の方法

本研究では、主たる方法として、着付け師であるひとりの女性（筆者の祖母）を話者とする聞き取り調査を行った。この女性は着付け師として27年の経験を持ち、多くの顧客を担当する中で伝統文化の継承に努めてきた。その経験や価値観は着付け師という職業の意義を考察する上で重要である。本調査では、話者個人の体験を通じて、着付け師の役割とその背後にある想いを掘り下げることが目的とする。

調査は、話者の自宅で実施した。自然体で話してもらえるように、自由な雰囲気や心掛けてインタビューを実施した。質問事項はそのつど準備したが、回答に応じて適宜使用する程度にとどめ、極力通常の会話のような対話形式となるように留意した。主な質問項目は下記のとおりである。

まず着付け師としての活動に関して、特に印象

に残っている経験や、この仕事をしていてよかったと感じた瞬間などについて尋ねた。お客様とのエピソードや、仕事を通じて得られたやりがいについても具体的に回答を得た。

次に、話者が運営する着付け教室に関連する質問を行った。他の着付け師との横のつながりや交流がどのように形成されているのか、またそれが仕事や活動にどのような影響を与えているのかについても尋ねた。またこれまでの活動での失敗談や、その経験をどのように克服したのかについても質問を用意した。さらに、着付けの料金設定に関する質問では、経営者によって異なるのか、お客様の要望に応じた違いがあるかどうか、その基準について具体的に聞くこととした。

最後に、話者の活動の特徴づけるアルバムの作成に関する質問を行った。アルバムを作成しようと思ったきっかけや、その作成を通じて得られた成果や喜びなどが聞き取りの主題となった。また、それが実際の業務でどのように活用されているかについても聞いた。

なお、調査の実施日は以下のとおりである。

- ・2023年 9月21日 着物の種類に関する聞き取り
- ・2023年 10月31日 着付け師になったきっかけ、現在と過去との違いに関する聞き取り
- ・2024年 3月28日 実際に着付けをしている場面の記録
- ・2024年 6月20日 経歴に関する聞き取り
- ・2024年 7月 9日 経歴に関する聞き取り
- ・2024年 8月 4日 創作結びアルバムの撮影と聞き取り
- ・2024年 9月12日 アルバムと着付け教室に関する聞き取り

## 第2章 着付け師の経歴

この論文で取り上げる着付け師、山本恵子さん（以下、恵子さん）は、昭和24年（1949）2月21日に、兵庫県丹波市の古田家で五人兄弟の末っ子として生まれた。両親は戦後20年間竹細工をしていた。地元の兵庫県立柏原高校に通い、卒業後は両親の仕事の手伝いをするかたわら、昭和44年

（1969）から明治電機工業株式会社の下請けとして、営業でオイルコンデンサーのはんだ付けの仕事に3年間従事した。

昭和47年（1972）、22歳でお見合い結婚をする。夫（筆者の祖父）は会社員として定年まで働き、現在は家の家事を手伝っている。

2人の子育ての安定後、恵子さんは平成9年（1997）に「京都きもの学院」京都駅前教室に入学する。そのきっかけは、恵子さんの年の成人式で、洋服にしないといけないと市から伝達があり、振袖を着ることができなかったことである。このときのことを恵子さんは、「振袖は憧れやったしほんま悔しかったわ～」と振り返る。成人式で振袖を着ることが憧れであったぶんショックは大きかった。振袖を諦めたものの、その思いは心に残り続け、いつか孫に振袖を着させたいという願いが強まった。

その思いから、恵子さんは近所の人や知り合い同士で声を掛け合い、上述した教室と一緒に通いはじめる。教室での学びは週に1回で、着物の種類、帯の種類、結び方、着物の畳み方、季節によって異なる着付け方法や仕立て方、春夏秋冬の装い、着付けに必要な道具、作法など幅広く、実際に着物を着付けしながら教科書を使って進められ、着物の奥深さを感じる日々であったという。

平成10年（1998）に株式会社手原産業倉庫に事務職として就職するが、着付けの魅力を捨てきれず平成13年（2001）からは「京都きもの学院」に通い始めた。この時期には雑誌のモデルの着付けや着付けファッションショーの着付けに関わったり、大阪のホテルや嵐山のお寺での撮影現場にも立ち会ったりした。着付けを通じて様々な場所に訪れ、和装の美しさに触れる機会が増えていった。こうしたスタジオでのモデルのショーの着付けなどには平成20年（2008）まで携わっていた。

平成19年（2007）に「京都きもの学院」を卒業。さらなる知識を求め、独学で着付けの勉強を続ける。この間、京橋の着付けの事務所で、成人式や結婚式の着付けを3年ほど担当していたこともある。自分が着付けを行い、モデルがランウェイに立つ瞬間を見たりすることで、着付けの技術が一つの芸術であることを強く実感するようになったという。またこのころから恵子さんは「創作結

び」にも取り組み、自身の着付けの幅を広げていく。

平成20年から京田辺市の息子が経営している美容院の2階で、着付け教室を開講する。ここでは振袖や袴、結婚式の花嫁衣裳など、さまざまな場面で着付けを教えるようになった。さらに平成21年(2009)からは、美容院と正式に契約を結び、成人式や結婚式の着付けを本格的に行うようになる。多くの人の特別な日のサポートをすることにやりがいを感じ、その表情や感謝の言葉に支えられていると恵子さんは語る。長年にわたり勤めた運送会社は令和4年(2022)に退社し、現在も着付けを続けている(写真1・写真2)。

孫に振袖を着させたいという当初のきっかけは、この間、令和2年(2020)に孫1人、令和5年(2023)に孫2人、さらに令和7年(2025)に最後の孫の成人式での袴の着付けをすることで、念願をかなえることができた。

恵子さん自身、若い頃は自分で着物を着るのが好きで、私服としてよく着ていた。27～28歳くらいまでは着物を日常的に楽しんでいたという。家にある着物はだいたい30着くらいで、着付けの仕事の場面で体に合わなかったりしたときには知人に着物を貸してもらったりすることもある。

### 第3章 着付け師の語り

着物を美しく着こなすために欠かせない存在である着付け師。その仕事には技術や経験だけではなく相手への気遣いが求められる。まず恵子さんの聞き取りを通して、仕事で感じる「良かったこと」、着付け師としての仕事の実際、着物文化を次世代に伝える場である「着付け教室」について、そして経験を積む中で直面した「失敗談」など、着付け師ならではのエピソードを尋ねた。聞き取りを通じて、着付け師という仕事の奥深さとその魅力に迫ることを試みたい。

#### 第1節 着付け師として生きる喜び

恵子さんは長年にわたり着付け師として活動している。仕事の幅は広く、成人式、入学式、卒業式、結婚式、各種会合、浴衣の着付けなど、様々な場面に対応している。成人式では振袖、入学式や卒業式では訪問着や付下げ、結婚式では白無垢や色打掛、浴衣では夏祭りや花火大会などが主な対象となる。着付けをする人数(モデル相手や練習で着付けをした人数は含まない)は年間20人程度で、すべて女性である。

着付け師の仕事は単に着物を着せるだけではな



写真1 着付け専門部門の終了の証  
(2024年3月28日、筆者撮影)



写真2 着付けをする山本恵子さん  
(2025年1月31日、筆者撮影)

## 着付け師のライフストーリー

く、着物の小物選びやコーディネートのアドバイス、着物を着たときの快適さや美しさを最大限引き出す工夫も含まれる。特に成人式や結婚式など、人生の節目となる行事に関わるが多く、技術とともに責任感や配慮が求められる。

恵子さんが着付け師として活動をしていて良かったことの一つは、着付けを通じて様々な場所に訪れる機会を得られたことである。経歴のなかでも述べたように、着付けの仕事は、成人式や結婚式、イベント会場などで多種多様な場所が必要とされる。そのため、普段は訪れる機会が少ない場所に行くことも多い。

例えば平成13年(2001)頃から参加した、着付けのモデルのショーや歴史ある建造物での着付けである。モデルのショーでは、普段の着付けとは異なる華やかな演出や、目を引くデザインを考える必要があり、挑戦的ではありながらも非常にやりがいを感じたという。またお寺での撮影も、着物の美しさと伝統的な建造物や自然の風景が調和し、魅力的であった。「やっぱモデルさんは綺麗やから着物も綺麗に着はるねん。ほんで背景にすごい建物があるから、もうこれは凄かったわ」と振り返るように、写真を通じて着物文化の魅力を発信する場に立ち会えるという経験を得ることができた。

二つ目は、創作結びを作る楽しさを感じられることだという。創作結びに取り組み始めたのは平成18年(2006)頃である。オリジナルの帯結びは、着物の美しさを引き立てる重要な要素であり、着る人の個性や特別な場面に合わせたデザインを考える過程は創造的である。「綺麗目の着物には薔薇、可愛い雰囲気のものにはリボンみたいな感じで色んなものを作りたかったん。やっぱりな、女の子は見た目のかわええもんが好きやろ?」と恵子さんは語る。自分のアイデアや工夫を形にし、技術やセンスを表現できる点は着付け師の仕事の大きな魅力の一つといえる。

三つ目はさまざまな体型や個性を持つお客様に着付けをすることで、自分の技術が磨かれ、自分の成長を実感できることである。「お客様一人ひとり体型や要望はちゃう。それをおばあちゃん(話者)がもってる技術でどんだけ満足してもらえるかが大事やねん」というのである。マネキンで練

習をするのではなく、実際に生身の人間で練習を重ねることで工夫を凝らすことが可能になり、自然と技術が磨かれていく。そうすることでより高いレベルの着付けが可能になる。

一見すると難しい体型や着物のリクエストも、恵子さんは挑戦として楽しんでいる。どのような状況でも前向きに取り組む姿勢が、長年の経験と信頼に繋がっている。さまざまな経験を積むことで、技術だけではなく、相手への配慮や柔軟性も向上している。

四つ目は孫に着付けをすることができたことである。女の子の孫が4人おり、平成12年(2000)に一人目の孫が七五三を迎えた機会をはじめとして、十三参りや成人式など人生の節目に自らの手で着付けを行った(写真3)。七五三の際には、まだ幼い孫たちが初めて着物を着る姿やはしゃいでいる姿を見て、「ほんま夢が叶った瞬間やったわ〜。おばあちゃんずっとあんたたちに着させたかってん。孫全員女の子でよかった」と語る。一瞬でも着崩れしないように細心の注意を払いつつも、華やかで可愛らしい着物姿に仕上げたエピソードが印象的であった。

成人式では、それぞれの好みを取り入れながら、華やかさの中にも個性は光る着付けを心がけた。完成後に孫たちが「おばあちゃん、ありがとう!」と笑顔で感謝を伝えてくれた際には嬉しさと同時に孫たちの成長も感じる事ができた。

ところで家族に着付けをするのは、お客様とはまた違った緊張感があるという。仕事としての責任感だけではなく、家族の大切な思い出を形にするという特別な使命感がともなうからだ。その一方で、家族だからこそ挑戦できるものもある。孫たちが普段から着物に慣れていないため、「もっとこうしてほしい」「ここが苦しい」など率直な意見が飛び交い、その場で調節を繰り返す。家族ならではの気軽なコミュニケーションが、普段のお客様では得られない経験となる。孫たちが実際に動きながら動きやすさやきつさを教えてくれることが、新しい着付けのアイデアとして他のお客様へのサービス向上にも役立つ面がある。

最後に、自分がしたかったことを今も続けられていることである。幼い頃から着物に魅了され、子育てが落ち着いてから着付け師を志した。学ん

でいくうちに、できることが増えたり、アイデアが浮かんだり、さまざまな達成感や喜びを感じてきた。その時のことを今でも鮮明に覚えているという。その思いは現在でも変わらず、自分の好きなことを職業として続けられる幸せを実感している。

「好きなことだからこそ、どんな時も楽しいし頑張れる」という恵子さんの言葉が印象的であった。忙しい時期や体力的に大変な日々もあったが、お客様や家族が喜ぶ姿を見ると、着付け仲間と楽しく話しているときなどに、「この仕事を選んで良かった」と感じるという。自分の手でその場を華やかに演出できることは大きなやりがいとなっている。インタビューに応じる恵子さんの表情からは、着付けへの深い愛情と誇りが伝わってきた。

## 第2節 着付け師の実務

着付けの料金については、約20年前に着付け業界内で一定の申し合わせが行われ、基本となる価格が定められた。それ以降は一部の着付け師は着物の価格やサービス内容に応じて、基準額に追加料金を設ける動きもみられる。しかし、恵子さんはその料金を引き上げるつもりはないという(写真4)。その背景には、着物の購入やレンタル

自体に高額な費用がかかったり、ヘアスタイルにも費用がかかったりしてしまう現状があり、さらに着付けまで高騰させてしまうと、着物が「手の届きにくいもの」になりかねないという懸念がある。

恵子さんは着物文化を守り広めるためには、多くの人が気軽に着物を楽しめる環境を整えることが不可欠であると考えている。そのため料金設定においても、人々が着物に親しみやすいと感じられるバランスを大切にしている。

着付け師どうしの横のつながりについて尋ねたところ、着付けを教える立場にある10数人程度の仲間内で活発な情報交換が行われているという。このつながりは、日常的な会話や食事会などを通じて自然発生的に形成されているもので、非常に実践的かつ親しみやすいものとなっている。

交流の中では、特に帯結びに関する話題がよく取り上げられる。「この結び方が現在流行している」「見た目はかわいいがほどけやすいので避けたほうがよい」といった具体的な意見が交換されることが日常的である。また、着物の装飾に関するトレンドも話題となり、最近注目されているレースを帯に取り入れるスタイルについては、「レースの幅は3センチ程度が上品に見える」といった詳細なアドバイスが共有されることもある。この



写真3 成人式を迎えた孫の着付け  
(2023年1月9日、松本朋子 撮影)

| 着付け料金表   |                | マディ美容室 |
|----------|----------------|--------|
| 留袖       | 二重太鼓 袋帯        | 5000円  |
| 振袖       | 留袖結び 袋帯        |        |
|          | 留袖結び 袋帯        |        |
| 訪問着・付け下げ | 留袖結び 袋帯・名古屋帯   |        |
| 小紋       | 留袖結び 名古屋帯      | 4000円  |
| 成人～高校生   | 袴 半幅帯          |        |
| 中学生以下    | 袴              | 4000円  |
| 浴衣       | (留袖結び) 半幅帯     | 5000円  |
| 浴衣       | 付け帯            | 4000円  |
| 十三参り     | (留袖結び) 袋帯・名古屋帯 | 5000円  |
| 十三参り     | 付け帯            | 4000円  |
| 七五三      | 付け帯            | 4000円  |

写真4 現在の着付け料金表  
(2024年8月4日、筆者撮影)

ような情報交換は、時代の流行やニーズを取り入れつつ、実用性を重視した着付けを行うための重要な指針となっている。

一方、過去にはモデルの着付けを手掛けていた着付け師が、会社を通じたネットワークを持っている場合もある。しかし、そうしたつながりは限定的なものであり、現在主流となっているのは、個人間で自主的に築かれる交流である。この形式は自由度が高く、着付け師一人ひとりが持つ独自の経験や技術を活かしながら、新たな価値を創造する場として重要な役割を担っている。

このような着付け師同士の横のつながりは、単なる情報交換を超えた意義を持っている。それは、着付け文化の現代的な発展に寄与するだけでなく、着物が持つ魅力や美しさを次世代に伝えていくための重要な基盤となっているといえる。着付け師たちが互いに影響を与え合いながら新しい価値観を生み出すその姿勢こそが、着物文化の持続可能性を支える鍵となっている。

### 第3節 着付け師が創る学びの場

平成20年（2008）、恵子さんは息子が経営している美容院の2階を拠点に着付け教室を開いた。教室をもつ決意したのは、着付けを行った際に多くの人から「とても楽です」との感想をもらったことが大きなきっかけである。特に、現代では着物に対して苦しい、動きづらいといったネガティブなイメージを抱く人が少なくない。しかし、恵子さんが着付けを施した人々からは、「思った以上に着物が快適に感じられた」とか「これならまた着物を着てみたい」といった前向きな声が多く寄せられた。これにより、恵子さんは「着物を着ることで楽しいと思える人を一人でも多く増やしたいねん」と強い思いを抱くようになった。

また、着物の魅力や心地よさを感じてもらうことは、単に個人の満足にとどまらず、着物文化そのものを次世代に継承していくうえで重要な役割を果たすと恵子さんは考えた。そのためには、自分の培った技術や経験を体系的に伝えられる場が必要だと感じ、着付け教室を開くことを決意したのである。

会社に勤めながら教室を運営することになったが、会社からは協力を得ることができた。着付け

の仕事は早朝に行くことが多く、着付けを終えた後にそのまま出勤するという形で両立していた。忙しい日々の中でも、効率的に時間を使いながら仕事と教室運営を続けることができた。

恵子さんの着付け教室は、「苦しいもの」という固定観念を打ち破り、「着物は心地よく美しいものだ」という新たな認識を広めるための重要な場所となっている。初心者でも気軽に学びながら、着物を身近に感じることができる。恵子さん自身の思いはもちろん、着付けを通じて多くの人にポジティブな体験を届けたいという使命感が、この決意をさらに強固なものにした。

### 第4節 着付け師の挑戦と成長

着付け師として経験を長年積んできた恵子さんに、試みに失敗についての考えを尋ねてみた。ところが着付け師の仕事においては「失敗はお客様相手では絶対にできひん！」と明確な答えが返ってきた。特別な日を彩るという責任が着付け師には課されているため、一つの小さなミスでも全体の印象やお客様の満足度に大きく影響を及ぼす可能性があるという。

このような背景から、恵子さんは常に失敗を防ぐための努力を欠かさない。その具体的な方法として、着付けを進める過程で複数回にわたりお客様自身に確認をとる習慣が挙げられる。この確認作業は単に正しく着せるためではなく、お客様の体型や着心地の感覚、さらには位置が正確であるかなど、多岐にわたる要素を含んでいる。またこの確認は一方的なものではなく、お客様とのコミュニケーションを通じて、お客様自身が抱く不安や要望を聞き取り、それを即した対応を取るための重要なプロセスであるという。

失敗を未然に防ぐためのこうした習慣や意識は、着付け師としての長いキャリアから培われたものである。恵子さんの言葉からは、着付け師が単にすぐれた技術職であればよいわけではない、という特徴も浮き彫りとなる。失敗のできない仕事を実現するためには、経験に基づく細やかな配慮と、相手を尊重する姿勢が不可欠であり、これが着付け師という職業の重要な魅力でもあるといえる。

## 第4章 創作結びについて

### —自作アルバムを読む

ここまで述べてきたように、着付け師は技術を提供するだけでなく、その場その場でのお客様の要望に応じて美を創造する職業である。中でも「創作結び」と呼ばれている帯結びは、着付け師の独自性や個性が最も発揮される部分である。

第3章で述べた聞き取り調査でも創作結びの楽しさを語っているように、恵子さんは独学で帯結びの技術を学び始め、その過程で創作した帯結びを記録したアルバムを制作した。これらの記録はどのように時代やお客様の要望に応える中で、恵子さんが追求した「新しい美」を物語っている。

本章では、恵子さんの自作のアルバムを通じて創作結びの具体例を取り上げ、その背景にある想いを紐解いていく。

#### 第1節 アルバム作りのきっかけ

恵子さんが創作結びのアルバムを作ることを思い立ったのは、自身が考案した帯結びを記録し、形として残したいという考えからである。特に、着付けを行っている際にお客様から「後ろ姿を写真に撮ってほしい」と頼まれることがあり、その都度、帯結びの後ろ姿を撮影していたことがきっかけとなった。このような経験を通じて、写真として記録を残すことの重要性和その魅力を感じるようになったのだという。

帯結びの後ろ姿は、着付けを行う恵子さん自身はもちろん、着付けを受けた本人でさえも直接見ることが難しい部分である。そのため、撮影した写真を改めて見た際に「こんなに素敵に仕上がっていたのですね!」と喜ばれることが多々あった。このようなポジティブな反応を受ける中で、恵子さん自身も帯結びの新たな可能性に気づくと同時に、創作を通じた喜びを再認識していった。

また、創作結びを記録に残すことは、恵子さん自身にとっても成長を振り返る機会となっていた。一つひとつの帯結びには、その時々を試行錯誤や工夫が詰まっている。記録として形に残すことで、後から見返したときに「この結びはこうやって工夫した」「このときはこんなインスピレーション

があった」という記憶がよみがえり、次の創作に向けた意欲を掻き立てるきっかけにもなっていた。

さらに、アルバムを作ることは、着物文化の魅力を広めるための大切な手段にもなっている。帯結びは、着物文化の中でも特に華やかで個性を表現しやすい要素の一つであるが、その多彩なバリエーションやデザイン性について、必ずしも広く知られているとは言えない。創作結びをアルバムという形で記録し、発信することで、着物や帯結びに興味を持つ人々が増え、着物文化そのものの普及や継承に貢献したいという想いも込められている。

このような背景から、恵子さんは創作結びのアルバムを自作することを決意した。それは単なる自己満足ではなく、帯結びの新たな可能性を広げるとともに、着物文化の魅力をより多くの人々に届ける手段として、大きな意義がある。なお本論文では、アルバムの資料的な意義にかんがみ、アルバムの全ページを撮影し、その被写体の特徴と書き込み内容を巻末にまとめて掲載することにした。

#### 第2節 アルバムにみる恵子さんの自己表現

まずアルバムの基本的な内容についてまとめておく。

現在、このアルバムは5冊にわたり、恵子さんが試行錯誤を重ねながら培った帯結びの技術やデザインの工夫が詳細に記録されている(写真5・6)。これらのアルバムは、恵子さんが帯結びの技術を深め、独自のスタイルを確立していく過程を示す貴重な資料である。

アルバムには、平成13～23年(2001～2011)の約10年間にわたる作品が記録されており、その制作数や特徴には時期ごとの変化が見られる。最も古い作品は平成13年7月に記録された1点であり、このころ着付け師としての活動が始まったと推測される。その後、平成15年(2003)には8点、平成16年(2004)には12点、平成17年(2005)には13点と、作品数は徐々に増加し、特に平成18年(2006)以降に大きな変化が見られる。同年には31点、さらに平成20年(2008)には最多となる83点が記録され、アルバム作りのピークを迎えている。一方で、平成19年(2007)は7点、平成21年(2009)は14点、平成23年(2011)は6点と、制作数が減少する時期も存在する。

帯結びの形状やテーマに目を向けると、多様性と独自性が際立っている。特に、「バラ」をモチーフにした作品が12点、「タレ先」を強調したデザインが48点、「手先」を活かしたデザインが33点記録されており、帯の各部分を強調することで表現の幅を広げていることが分かる。また、「〇〇ヒダ」など独自の技法が数多く取り入れられており、テーマが明確なデザインが多いのが特徴である。これらの作品は、帯のどの部分を強調するかによって形状や全体の印象が大きく変わることを示しており、着用者の個性や着用シーンに応じた工夫がなされている。

このなかでも技術の精度やデザインの統一感が顕著になるのは平成18年以降の作品で、恵子さんが着付け師としての技術を深化させるとともに、独自のスタイルを確立していった過程がうかがえる。この時期の作品には、単なる装飾としての帯結びを超えたテーマ性や芸術性が見られる。そのデザインは、きもの文化の枠を越えた創造性を示すとともに、着付け師の役割が単なる技術者にとどまらず、文化を支えるアーティストであることを示唆している。

これらのアルバムの記録からは、恵子さんが日々の努力と工夫を通じて帯結びの技術を追求し、着物文化を通じて自己表現を確立してきたことが明らかになる。特に、帯の各部分を活かしたデザインや技法の工夫は、現代の着付け師に求められる創意工夫と表現力の重要性を示すものである。

### 第3節 初めての創作結び

平成19年（2007）頃、創作結びを独学で学び始めたばかりの頃に、恵子さんが初めて挑戦した創作結びが「薔薇」である（写真7）。この結びは、帯を使って薔薇の花の形を表現したもので、肩幅より狭く、きれいにまとめることで全体のバランスを整えるよう工夫した。かわいらしさと優雅さをイメージしながら作り上げたこの結びは、見た目の華やかさだけでなく、実用性の高さも特徴的である。さまざまな場面に使いやすい仕上がりで、現在でも「この時はうまくできた」と振り返るほど満足感を得られた結びとなった。



写真7 初めての創作結び「薔薇」  
(2024年9月12日、筆者撮影)



写真5・6 自作アルバムの一部（2024年8月4日、筆者撮影）

「薔薇」の結びは、単に美しい形を追求するだけでなく、自分の感性を帯という素材に投影する創作の楽しさを恵子さんに教えてくれた。この過程では、帯の質感や長さ、色柄をどのように生かすか、そして形をいかに安定させるかといった技術的な課題にも直面した。試行錯誤を重ねながら完成させたこの結びは、技術だけでなく、自分の発想を自由に形にする喜びをもたらしてくれた。

また、創作結びに挑戦する中で、着付けは単なる伝統技術の継承にとどまらず、現代の感覚や個人の創造性を取り入れることで、さらに魅力的なものに進化する可能性を秘めていることを実感した。この「薔薇」の結びは、着付けの新たな可能性を模索する第一歩であり、創作を通じて自分自身の成長を感じるきっかけともなった。

初心者でありながら挑戦的な取り組みを通じて得たこの経験は、その後の創作活動や技術向上へのモチベーションを高める原動力となった。「薔薇」は、恵子さんにとって着付けの奥深さと楽しさを再認識させてくれた、特別な意味を持つ結びである。

#### 第4節 創作結びの技術とバリエーション

恵子さんの作品アルバムの中では、帯結びに関する専門用語が頻繁に使用されている。これらの専門用語は、帯結びの構造や装飾技法を具体的に表現するために用いられており、作品の技術的な特徴やデザインの多様性を理解する上で重要な要素となっている。ここでその主な用語について記述しておきたい。

まず、「手先ヒダ」は帯の手先と呼ばれる部分にヒダを作る技法を指し、恵子さんの作品の8～9割に取り入れられている。この技法は帯結び全体のデザインを整える役割を果たし、作品に統一感をもたらしている。

次に、「タレ先」は帯のタレと呼ばれる部分に関連する用語で、帯を柄の向き通りに配置した際に一番下に位置する部分を指す。タレ先を強調したデザインは、帯の全体的な構成において重要なアクセントとなっており、恵子さんの作品でも頻繁に使用されている。

「追いかけヒダ」(写真8)は、帯の輪の方から角形に折り込み、その部分を表合わせにして作る技法である。片側に折り山を作り、ヒダの形状を扇子のように整えるのが特徴で、立体感と華やかさを演出するデザインとして多くの作品に採用されている。

また、「リーフヒダ」(写真9)は帯をねじるなどして葉の形を作る技法であり、その柔らかく自然な形状が、作品に動きや軽やかさを与える。特に植物や自然をモチーフにしたデザインでは、この技法が活かされていることが多い。

これらの技法は、アルバムの中で多くの作品に取り入れられており、帯結びの多様な表現を可能にしている。また、これらの用語が頻繁に用いられていることから、恵子さんが帯結びの構造や技法を深く理解し、効果的に活用していたことがうかがえる。帯結びにおける技法の選択は、着用者や場面に応じたデザインの工夫に直結しており、



写真8  
追いかけヒダの再現  
(2025年1月31日、  
山本恵子 撮影)



写真9  
リーフヒダの再現  
(2025年1月31日、  
山本恵子 撮影)



写真10  
バラ結びの再現  
(2025年1月31日、  
山本恵子 撮影)



写真11  
二葉の再現  
(2025年1月31日、  
山本恵子 撮影)

恵子さんの作品における独創性を支える重要な要素となっている。

さらにアルバムを詳しく読むと、1つの創作結びから最低でも3つ以上の異なる形にアレンジできるという特徴がみられた。これにより、同じ基本的な結び方であっても、多様なデザインバリエーションを生み出すことが可能である。また、同じ結び方でも、使用する帯の模様や色合いが異なるだけで全体の印象が大きく変化する。これは、帯の素材や柄の選び方が帯結びのデザインと同様に重要な要素であることを物語っている。

さらに、アルバムには恵子さんが独自に編み出した創意工夫や、試行錯誤を通じて磨き上げた技術が数多く反映されている。特に、帯のどの部分を強調するか、特定の技法をどのように組み合わせるかといった点において、細やかな配慮がうかがえる。また、着用者の体型や着用シーンに応じた工夫が随所に見られ、単なる装飾ではなく、着用者自身の個性を引き立てるデザインが意識されている点も特徴的である。

これらのアルバムは、恵子さん自身の創作活動の記録であると同時に、帯結びという文化的技術の魅力や可能性を示す証でもある。さらに、着付け師の視点から見た帯結びの多様な表現や工夫を具体的に示しており、伝統文化を未来へと継承していくための重要な知見を提供している。このような記録を通じて、帯結びが持つ無限の可能性と、それを支える着付け師の技術の意義を改めて認識することができる。

## 第5節 創作結びから発信する着物文化

前述したようにアルバムは約10年間にわたって作成が続けられた。ある程度の作品を作り上げた段階で新たなアルバム作りは終了し、現在ではこれらをサンプルとして活用しながら、自身の経験を後進に伝える役割を果たしている。

恵子さんによると、創作結びを作成しておくことには多くの利点がある。まず、自分自身の記録として残せる点である。帯結びは一度形を作っても、ほどこいてしまえばその形は失われる。そのため、完成した帯結びを写真やメモで記録しておくことで、自分がどのような手順で形を作ったのかを後から振り返ることができる。さきにも述べた

ように、この記録は、技術向上の糧になるだけでなく、次の創作に向けたアイデアの源泉としても役立っている。特に独学で学び始めた頃から、創作結びを記録する習慣を続けてきたことが、自分自身の成長を支える基盤となったと感じるという。

さらに、創作結びはお客様とのコミュニケーションを深める手段としても効果的である。多くの人は、帯結びに関する具体的な知識やイメージを持っていないことが多い。そのため、実際のサンプルを見せることで、どのような形が可能であるかを視覚的に伝えられるのは大きな利点だ。言葉だけでは伝えきれない帯結びの魅力や美しさも、実物を見せることで、一目で理解してもらうことができる。またサンプルを見ながらお客様と会話を重ねることで、彼らの好みや要望をより具体的に把握することが可能となり、結果的に満足度の高い着付けを提供できる。

サンプルとして活用することで、お客様の帯選びにも役立てることができるのも重要なポイントだ。完成した創作結びを見せることで、どの帯がどの結び方に適しているか、依頼者の側でも理解しやすくなる。これにより、お客様自身が選択肢を広げ、自分に合った帯や結び方を納得して選べるようになる。またお客様が積極的に選ぶプロセスを通じて、着物に対する愛着や興味をさらに深めてもらえることも期待できる。

創作結びを作成し、それを記録し活用することは、着付け師としての成長を支えるだけでなく、着物文化を広く伝える一助にもなる。これらの取り組みを通じて、恵子さんは、お客様にとっても着物がより身近で魅力的な存在となることを願っている。創作結びを試みてよかったと感じるのは、その技術や記録が、自分自身の向上とお客様とのより良い関係構築の両方に大きく貢献しているからにほかならない。

## おわりに

日本の伝統衣装である着物は、平安時代から現代に至るまで、その形や役割を変化させながら日本文化を象徴する存在として受け継がれてきた。現在でも、冠婚葬祭や特別な行事において着用され、伝統文化の一端を担いながら生活に根付いて

いる。

着物そのものの美しさや歴史、文化的背景に関する研究は数多く存在する一方で、それを実際に人々の生活に取り入れるための技術と感性を持つ着付け師についての研究は極めて少ない現状がある。これに対して本研究では、着物そのものや歴史ではなく、それを現代の日常の中で形にする存在として着付け師を捉え、その活躍のありかたを描き出してきた。

研究を進める中で、着付け師の持つ高い技術や、それを支える深い思いに触れる機会を得ることができた。聞き取り調査を通じて、恵子さんが感じるやりがいと、日々直面する課題について多くの示唆を得た。また、創作結びに挑戦した経験を通じて、着物の可能性の広がり、着付けにおける独自の美意識を実感するに至った。その要点は、つぎのようにまとめることができる。

まず聞き取りを通じて、恵子さんが「かわいい」という強い意志を持つ一方で、変化する時代に対応する柔軟性も併せ持っていることがわかった。多くの人の着付けを行ってきた中で、伝統的な手法だけでなく、現代的なアプローチを取り入れることで、着物文化の魅力をより広く伝える努力をしている姿が見られた。また、家族や友人、地域社会とのつながり、次世代への技術の継承に対する責任感が、恵子さんの人生観や職業意識に深く影響を与えている点も注目値する。

さらに創作結びの作品アルバムを分析した結果、帯結びの技術やデザインの進化、表現のテーマに一貫性と独自性が見られることが明らかになった。恵子さんの帯結びは、創作の過程で試行錯誤を重ね、独学で学んだにもかかわらず高度なアレンジ力と美的感覚を発揮している。その技術は、単に美しい帯結びを作ることにとどまらず、伝統的な帯結びの新たな可能性を切り拓いたといえる。加えて、これらの記録は、着付け師としての恵子さんの創意工夫と自己表現の過程を示すだけでなく、着物文化を支える着付け師の役割を考察するうえで貴重な資料となりうる。

着付け師のライフストーリーに焦点を当てることは、着物文化の奥深さやそれを支える人々の重要性を改めて浮き彫りにする契機となった。着付け師の人生を通じて、着物文化がどのように受け

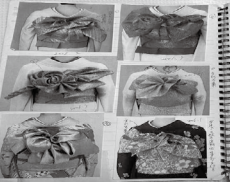
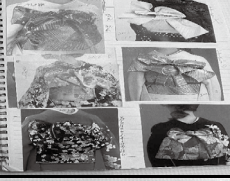
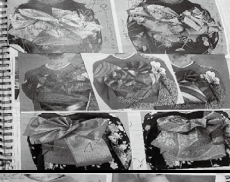
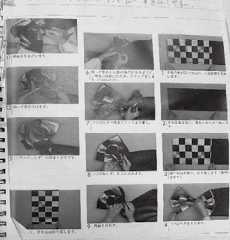
継がれ、また現代社会の中でどのように生き続けているのかが浮き彫りになってきたといえる。着付け師という存在は、単なる「職業」の枠を超え、現代の着物文化を継承し、これを広く発信する上でも欠かせない存在なのである。

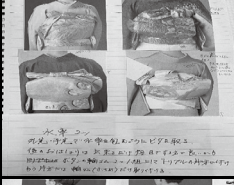
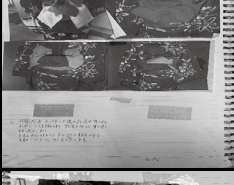
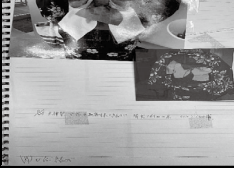
また着付け師に注目する意義は、着物という文化財が単に保管されるだけでなく、人々の手を通じて実際に使用されることで、その価値が最大限に発揮される点にある。伝統的な着物の形式美を維持しつつ、現代の生活に適応させる橋渡し役として重要な存在である。着付け師の技術と創意工夫は、着物が単なる過去の遺産ではなく、現代に生きる文化として機能するための鍵を握っている。

恵子さんの足跡は、着付け師が日本の着物文化を支える重要な存在であることを改めて私たちに教えてくれている。着付け師の仕事を通じて、着物が人々の日常に息づいていること、その背景にある努力と情熱を広く伝えたいと強く感じている。

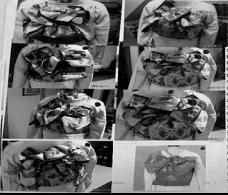
- <sup>1</sup> こどもくらぶ編『調べる学習百科 和服がわかる本』、岩崎書店、2016年
- <sup>2</sup> 長崎巖著『ようこそきものの世界へ An Introduction to Kimono』東京美術、2020年
- <sup>3</sup> 井筒雅風著『日本服飾史—女性編』光村推古書院株式会社、2015年
- <sup>4</sup> 伊藤佐智子著『きもの—日本の服飾図譜 平安から現代まで』パイインターナショナル、2011年
- <sup>5</sup> 八條忠基著『素晴らしい装束の世界—いまに生きる千年のファッション』株式会社誠文堂新光社、2005年

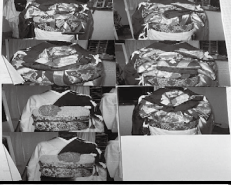
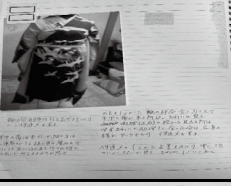
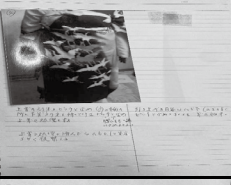
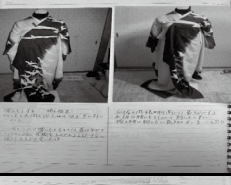
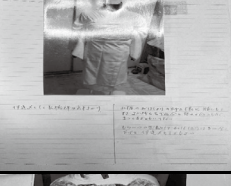
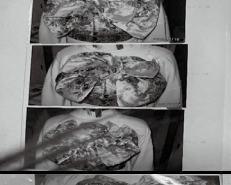
## 着付け師のライフヒストリー

|   | 年数                                                                                     | 写真                                                                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 上段左：2006年2月<br>上段右：2001年7月<br>中段左：2006年7月<br>中段右：2006年7月<br>下段左：なし<br>下段右：2006年1月      |    | 上段左：ブルームヒダ はなすみ<br>上段右：（説明なし）<br>中段左：バラ<br>中段右：変形万葉<br>下段左：（説明なし）<br>下段右：変形万葉／手先で二枚の変形万葉ヒダを作る                                                                                                                                                                                      |
| 1 | 上段左：2006年1月<br>上段右：なし<br>中段左：2005年12月<br>中段右：2005年12月<br>下段左：2005年12月<br>下段右：2005年12月？ |    | 上段左：変り万葉ヒダか花燭ヒダにする／タレ先追ヒダにして差込む／タレヒダの続き<br>上段右：バランス<br>中段左：芽ばえヒダ／てんまりヒダ<br>中段右：㊦<br>下段左：ちょうちょ<br>下段右：（説明なし）                                                                                                                                                                        |
| 2 | 上段左：2006年8月<br>上段右：2006年8月<br>中段左：2006年8月<br>中段右：2004年11月？<br>下段左：なし<br>下段右：2005年8月    |    | 上段左：花燭ヒダ<br>上段右：花燭ヒダ<br>中段左：風鈴ヒダ／花燭ヒダ 小き目のブルームヒダにする<br>中段右：タレ先／手先花燭ヒダにする／ツバサヒダ<br>下段左：（説明なし）<br>下段右：バラ・風鈴他／小き目のバラうら地出す／ヒダを変えて多数する                                                                                                                                                  |
| 2 | 上段左：2006年5月<br>上段右：2005年12月<br>中段左：2006年8月<br>中段右：2006年3月<br>下段左：2005年8月<br>下段右：なし     |    | 上段左：手先の輪／たれ先<br>上段右：ブルームヒダ×<br>中段左：宝珠ヒダ／まんころ<br>中段右：ブルームヒダ<br>下段左：名古屋にも出来る帯結び<br>下段右：（説明なし）                                                                                                                                                                                        |
| 3 | 上段左：2006年5月<br>上段右：なし<br>中段左：なし<br>中段右：2006年10月<br>下段左：2004年1月<br>下段右：2007年1月          |   | 上段左：手先ヒダ 大き目／万葉ヒダ／タレ先<br>上段右：（説明なし）<br>中段左：風鈴ヒダ<br>中段右：タレ先／手先<br>下段左：（説明なし）<br>下段右：手先／大きめタレ先万葉ヒダ                                                                                                                                                                                   |
| 3 | 上段左：2006年1月<br>上段右：2006年1月<br>中段：2007年5月<br>下段左：なし<br>下段右：なし                           |  | 上段左：タレ元／タレ先／輪／ブルームヒダにするとバランスが良い<br>上段右：タレ先を輪にして羽花を作る／ちょうちょの右横おく／ちょうちょヒダ／タレ先の万葉ヒダを作り<br>中段：（説明なし）<br>下段左：タレ先は中における<br>下段右：（説明なし）                                                                                                                                                    |
| 4 | 上段左：2006年5月<br>上段右：2006年12月<br>下段：2004年11月                                             |  | 上段左：タレ先／手先<br>上段右：タレ先のすぐ下で箱ヒダを作る<br>下段：（説明なし）                                                                                                                                                                                                                                      |
| 4 | 教科書の内容                                                                                 |  | 1.手先の柄が55cm～58cmの、六通袋帯を使用します。<br>2.手先帯裏を見て、帯を左から右へ流します。<br>3.40cm～45cmを取り、折り返します(体型に合わせて)。<br>4.三つ山ヒダをとります。<br>6.残った帯の上の角が頂点になるように、二等辺三角形にたたみ、クリップをします(つぼみヒダ)。<br>7.三つ山ヒダ一枚をクリップより離し、<br>8.〈つぼみヒダ〉を入れ込みます。<br>9.両縁を合わせ、<br>11.両縁を引き合います。<br>12.開いて形をつけます。<br>13.〈コサージュヒダ〉の出来上がりです。 |

|   |                                                                                                          |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                      |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | <p>上段左：なし<br/>上段右：2003年12月<br/>下段左：なし<br/>下段右：教科書の内容</p>                                                 |    | <p>上段左：花筏<br/>上段右：(説明なし)<br/>下段左：(説明なし)<br/>下段右：5.右3cm、左20cmのところを5cmを1回2回3回と折り上げ、6.15cmのところにクリップをします。</p>                                                                                                            |
| 5 | <p>上段左：なし<br/>上段右：なし<br/>下段左：2003年12月<br/>下段右：2003年12月</p>                                               |    | <p>上段左：タレ追いヒダ／手／タレ元<br/>上段右：帯巾20cmにする／紫の表紙p28／たれ先<br/>下段左：(説明なし)<br/>下段右：(説明なし)</p>                                                                                                                                  |
| 6 | <p>上段：2007年5月<br/>中段：2007年5月<br/>下段：2004年10月</p>                                                         |    | <p>(説明なし)</p>                                                                                                                                                                                                        |
| 6 | <p>上段左：2004年10月<br/>上段右：2005年3月<br/>中段左：2005年3月<br/>中段右：2005年3月</p>                                      |    | <p>上段左：輪<br/>上段右：輪／1つ結び付ける<br/>中段左：タレ元ループ／手先／タレ先<br/>中段右：手先が上になる様に結ぶ／手先は仔 上から下へ通し(2回)バランスをととのえる<br/>下段：水車2ツ 外先・手先で水車を包むようにヒダを取る 後のおはしよりは出来るだけ短目<br/>です方が良いかも ボタンの輪ゴム2つ1組にしてトリプルの片方に付けもう片方には輪ゴム<br/>(小さめ)だけを取り付ける</p> |
| 7 | <p>上段左：2004年10月<br/>上段右：2004年10月<br/>中段左：2004年10月<br/>中段右：2004年10月<br/>下段左：2004年10月<br/>下段右：2004年10月</p> |   | <p>上段左：(説明なし)<br/>上段右：小2目<br/>中段左：(説明なし)<br/>中段右：(説明なし)<br/>下段左：(説明なし)<br/>下段右：(説明なし)</p>                                                                                                                            |
| 7 | <p>上段左：2005年3月<br/>上段右：2004年10月<br/>中段左：2004年10月<br/>中段右：2004年10月<br/>下段左：2004年10月<br/>下段右：2004年10月</p>  |  | <p>上段左：角土し風に仕上げる<br/>上段右：(説明なし)<br/>中段左：(説明なし)<br/>中段右：ゆかたにも応用！<br/>下段左：(説明なし)<br/>下段右：</p>                                                                                                                          |
| 8 | <p>上段左：なし<br/>上段右：なし<br/>中段左：なし<br/>中段右：なし</p>                                                           |  | <p>上段左：(説明なし)<br/>上段右：(説明なし)<br/>中段左：(説明なし)<br/>中段右：(説明なし)<br/>羽根左右2つ作った後のタレ先は背の方に上げてクロス掛けをする タレ先の余りは背の中に押し込んでおく<br/>手先は60cm位とって下で◎の部分を作り手先のゴムにかけてタレ先の下に出す</p>                                                       |
| 8 | <p>上段：なし<br/>中段：なし</p>                                                                                   |  | <p>上段：(説明なし)<br/>中段：(説明なし)<br/>7月25日天神祭りマディーのお客様結ぶ 背丈165cmの方 リバーシブルの帯／ゆかた結び</p>                                                                                                                                      |

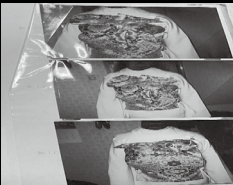
## 着付け師のライフストーリー

|    |                                                                                                                                                           |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                               |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | <p>上段左：2007年12月<br/>上段右：なし<br/>中段左：なし<br/>中段右：なし<br/>下段左：なし<br/>下段右：なし</p>                                                                                |    | <p>上段左：(説明なし)<br/>上段右：(説明なし)<br/>中段左：急ぐ時／たれ先は右にした方が良い<br/>中段右：(説明なし)<br/>下段左：(説明なし)<br/>下段右：(説明なし)</p>                                                                                                                        |
| 9  | <p>上段：2008年9月23日<br/>中段：2008年9月23日<br/>下段：2008年9月23日</p>                                                                                                  |    | <p>(説明なし)</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| 10 | <p>1段左：2008年10月17日<br/>1段右：2008年10月17日<br/>2段左：2008年10月17日<br/>2段右：2008年10月17日<br/>3段左：2008年10月17日<br/>3段右：2008年10月17日<br/>4段左：2008年10月17日<br/>4段右：なし</p> |    | <p>1段左：タレ先<br/>1段右：つばさひだ(小)<br/>2段左：タレ先<br/>2段右：タレ先<br/>3段左：タレ先<br/>3段右：タレ先<br/>4段左：手先／タレ先<br/>4段右：(説明なし)</p>                                                                                                                 |
| 10 | <p>1段左：2008年10月19日<br/>1段右：2006年5月<br/>2段左：2008年10月19日<br/>2段右：2008年10月19日<br/>3段左：なし<br/>3段右：2008年10月19日<br/>4段左：なし</p>                                  |    | <p>1段左：(説明なし)<br/>1段右：バラ／リークヒダ／かいりヒダ／ブルムヒダ／手先／タレ元／枕をした後に作る／タレ先<br/>2段左：(説明なし)<br/>2段右：小さ目のちょうちょ／タレ先／つばみ／バラ<br/>3段左：ブルームヒダ<br/>3段右：タレ先／手先追いかけひだ<br/>4段左：ブルームヒダ<br/>4段右：</p>                                                    |
| 11 | <p>1段左：2008年10月20日<br/>1段右：2008年<br/>2段左：2008年10月20日<br/>2段右：2008年<br/>3段左：2008年11月2日<br/>3段右：2008年11月5日<br/>4段左：2008年11月2日<br/>4段右：2008年11月</p>          |   | <p>1段左：(説明なし)<br/>1段右：(説明なし)<br/>2段左：リーク<br/>2段右：手さき／タレ先<br/>3段左：アルティズム<br/>3段右：追ヒダ<br/>4段左：(説明なし)<br/>4段右：角森作</p>                                                                                                            |
| 11 | <p>1段左：2008年11月7日<br/>1段右：2008年11月19日<br/>2段左：2008年11月5日<br/>2段右：2008年11月19日<br/>3段左：2008年11月12日<br/>3段右：2008年11月<br/>4段左：なし<br/>4段右：2008年</p>            |  | <p>1段左：タレ先／樺ひだ<br/>1段右：(説明なし)<br/>2段左：ヒダあり 開いてはダメ／追いひだ／樺ひだ／たれ先<br/>2段右：手先一結び<br/>3段左：角ちゃん<br/>3段右：角ちゃん<br/>4段左：角ちゃん<br/>4段右：角ちゃん／少し長い／花菱麦形</p>                                                                                |
| 12 | <p>1段左：2008年11月26日<br/>1段右：2008年12月10日<br/>2段左：2008年11月26日<br/>2段右：なし<br/>3段左：2008年12月14日<br/>3段右：2008年12月5日<br/>4段左：2008年12月14日<br/>4段右：2008年12月5日</p>   |  | <p>1段左：(説明なし)<br/>1段右：10月17日〇印の逆バージョン 1台のヒダの背に付けるのを タレ先は逆にハコヒダ<br/>2段左：(説明なし)<br/>2段右：フはひだの左背の羽根を下げ、左のヒダを上にする／バラ／つばさひだ<br/>3段左：(説明なし)<br/>3段右：羽根／色んなタイプの人にOK！<br/>4段左：マディー<br/>4段右：つばさ／羽根／バラ／つばさ／タレ先／つばさひだを引き合う事でシャープさが出る</p> |
| 12 | <p>1段左：2008年12月22日<br/>1段右：2009年2月20日<br/>2段左：2008年12月22日<br/>2段右：2009年2月28日<br/>3段左：2008年12月24日<br/>3段右：2009年2月28日<br/>4段左：2008年12月24日<br/>4段右：2009年</p> |  | <p>1段左：(説明なし)<br/>1段右：(説明なし)<br/>2段左：小柄な人に タレ先は折ってお太鼓<br/>2段右：(説明なし)<br/>3段左：追かけヒダ／広目<br/>3段右：(説明なし)<br/>4段左：手／タレ先／ブルームヒダは小さめ バラ・リーフ<br/>4段右：(説明なし)</p>                                                                       |

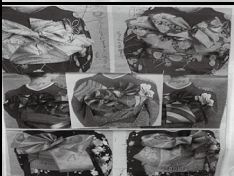
|    |                                                 |                                                                                     |                                                                                                                                                                                                         |
|----|-------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13 | なし                                              |    | なし                                                                                                                                                                                                      |
| 13 | なし                                              |    | (説明なし)                                                                                                                                                                                                  |
| 14 | なし                                              |    | 輪の◎部分は引き上げてしっかりから伊達襷をする／半巾の帯はボディーの細い方は三十巻きにして結び目の厚みを少なくした方がはかまを付けた時にきれいにおさまるように思う／ひもをしてから輪の部分すべて引き上げ半巾の帯が来る所きれいに整え、両腰(左右)の袴から見える所は必ずきれいに処理して余った分は写真の様にタックをとり伊達襷をする／伊達襷をしてから上をめぐり中にゴロついていないか見てきれいにしごいておく |
| 14 | なし                                              |    | 上のえり先をピッチで止め◎の輪の所と下えり先を持って行きピッチで止め(腰ヒモと一緒に止めるとよい)上を処理をする／上の処理が済んだらひもと1つに安定させて後整える／引き上げる目安はひざ下 ピッチで止めておくこと始末が                                                                                            |
| 15 | なし                                              |   | 腰ひもをする 脇の始末 胸ひもの間のゆるみは必ず引いておく／お振りとちがって腰ひもをするのは帯は半巾でちょうち結び《杖もトリプルもしないでひもをする必要がある》／お振りの同様胸高には最初にする お振は腰ヒモをしてから胸ひもをするが袴の時は胸ひもが最初の方が良いかと思う                                                                  |
| 15 | なし                                              |  | 伊達襷をして長襦袢は出来上がり／お振りのおはしりの時の様に腰ヒモをする。上に持ち上げた分を整える為のものできつくすぎてもいけない／もう一つの方法としておはしりは下に全て下げて伊達襷をしてもよい                                                                                                        |
| 16 | 上段：2006年7月19日<br>中段：2006年7月19日<br>下段：2006年7月19日 |  | (説明なし)                                                                                                                                                                                                  |
| 16 | なし                                              |  | (説明なし)                                                                                                                                                                                                  |

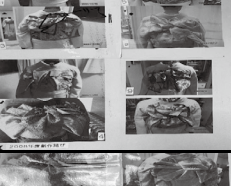
## 着付け師のライフヒストリー

|    |    |                                                                                     |        |
|----|----|-------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 17 | なし |    | (説明なし) |
| 17 | なし |    | (説明なし) |
| 18 | なし |    | (説明なし) |
| 18 | なし |    | (説明なし) |
| 19 | なし |   | (説明なし) |
| 19 | なし |  | (説明なし) |
| 20 | なし |  | (説明なし) |
| 20 | なし |  | (説明なし) |

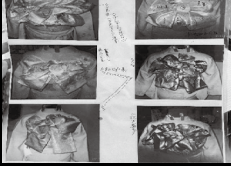
|    |                                |                                                                                     |                         |
|----|--------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| 21 | なし                             |    | (説明なし)                  |
| 21 | なし                             |    | (説明なし)                  |
| 22 | 上段：2006年5月12日<br>下段：2006年5月11日 |    | (説明なし)                  |
| 22 | 上段：2006年5月13日<br>下段：2003年12月   |    | (説明なし)                  |
| 23 | 上段：なし<br>下段：2003年12月           |   | (説明なし)                  |
| 23 | なし                             |  | 上段：伽羅ヒダ<br>下段：(説明なし)    |
| 24 | 上段：なし<br>下段：2003年12月           |  | 上段：花燭ヒダ(手)<br>下段：(説明なし) |
| 24 | 上段：2003年12月<br>下段：2003年12月     |  | 上段：かいうヒダ<br>下段：(説明なし)   |

## 着付け師のライフヒストリー

|    |                                                                                        |                                                                                     |                                                                                                                |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25 | 上段左：2009年2月20日<br>上段右：2009年2月20日<br>下段：なし                                              |    | (説明なし)                                                                                                         |
| 25 | 上段：2009年<br>下段：なし                                                                      |    | (説明なし)                                                                                                         |
| 26 | 上段左：2006年5月<br>上段右：なし<br>中段左：なし<br>中段右：2006年<br>下段左：なし<br>下段右：2008年11月7日               |    | 上段左：タレ先／万葉ヒダ<br>上段右：(説明なし)<br>中段左：風鈴ヒダ<br>中段右：手先／タレ先<br>下段左：(説明なし)<br>下段右：手先／タレ先万葉ヒダ大きめ                        |
| 26 | 上段左：なし<br>上段右：なし<br>中段左：2007年5月<br>中段真ん中：なし<br>中段右：2007年5月<br>下段左：なし<br>下段右：2008年11月7日 |    | 上段左：タレ先／ブルームヒダにするとバランスが良い<br>上段右：ちょうちょの右横おく<br>中段左：(説明なし)<br>中段真ん中：(説明なし)<br>中段右：(説明なし)<br>下段左：A<br>下段右：(説明なし) |
| 27 | 上段左：なし<br>上段右：2006年8月<br>中段左：2005年8月<br>中段右：なし<br>下段左：なし<br>下段右：2008年11月7日             |   | 上段左：花燭ヒダ<br>上段右：(説明なし)<br>中段左：小き目のブルームヒダにする／花燭ヒダ／風鈴ヒダ<br>中段右：タレ先／手先 花燭ヒダにする／ツバサヒダ<br>下段左：(説明なし)<br>下段右：バラ・風鈴他  |
| 27 | 上段左：2006年5月<br>上段右：2005年12月<br>中段左：2006年8月<br>中段右：2006年3月<br>下段左：なし<br>下段右：2008年11月7日  |  | 上段左：手先の輪／ブルーム／タレ先／毛先<br>上段右：(説明なし)<br>中段左：まごころ(万葉)<br>中段右：ブルームヒダ<br>下段左：名古屋にも出来る帯結び<br>下段右：(説明なし)              |
| 28 | 上段左：なし<br>上段右：なし<br>中段左：なし<br>中段右：なし<br>下段左：なし<br>下段右：2008年11月7日                       |  | 上段左：(説明なし)<br>上段右：手先／タレ先<br>中段左：手先／タレ先／バルーン<br>中段右：(説明なし)<br>下段左：手先<br>下段右：ゆかた手順いる                             |
| 28 | 上段左：2008年11月7日<br>上段右：2008年11月7日<br>中段左：2008年11月7日<br>中段右：2008年11月7日<br>下段左：2008年11月7日 |  | 上段左：バラ 花田ヒダ／椿ヒダ<br>上段右：(説明なし)<br>中段左：タレ先<br>中段右：タレ先<br>下段左：(説明なし)                                              |

|    |                                                                                                                                                    |                                                                                     |                                                                                                                                                                    |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 29 | 上段左：なし<br>上段右：2007年5月<br>中段左：2005年3月<br>中段右：2005年3月<br>下段左：2005年3月<br>下段右：2005年3月                                                                  |    | (説明なし)                                                                                                                                                             |
| 29 | 上段左：なし<br>上段右：なし<br>下段左：2005年3月<br>下段右：2005年3月                                                                                                     |    | 上段左：(説明なし)<br>上段右：斜面ヒダ(手)／名古屋帯の手先に作りおたいこの上のにのせるとかわいい！<br>下段左：A<br>下段右：(説明なし)                                                                                       |
| 30 | 1段左：2008年10月17日<br>1段右：2008年10月17日<br>2段左：2008年10月17日<br>2段右：2008年10月17日<br>3段左：2008年10月17日<br>3段右：2008年10月17日<br>4段左：なし<br>4段右：2008年11月7日         |    | 1段左：タレ先<br>1段右：つばさヒダ<br>2段左：タレ先<br>2段右：(説明なし)<br>3段左：タレ先<br>3段右：タレ先<br>4段左：手先<br>4段右：(説明なし)                                                                        |
| 30 | 1段左：2008年11月7日<br>1段右：2006年5月<br>2段左：2008年11月7日<br>2段右：2008年11月7日<br>3段左：なし<br>3段右：2008年11月7日<br>4段左：なし                                            |    | 1段左：(説明なし)<br>1段右：リーフヒダ カいうひだ／手先／タレ元<br>2段左：花ひだ<br>2段右：小さ目のちょうちょ／バラ<br>3段左：(説明なし)<br>3段右：手先追いかけひだ<br>4段左：(説明なし)                                                    |
| 31 | 1段左：2008年12月26日<br>1段右：2008年12月22日<br>2段左：2008年12月24日<br>2段右：2008年12月14日<br>3段左：2008年11月5日<br>3段右：2008年11月2日<br>4段左：2008年10月17日<br>4段右：2008年10月17日 |   | 1段左：1<br>1段右：5<br>2段左：3／リーフ／ブレードヒダ小さ目にする①は広目にする ②のヒダは小さく<br>2段右：2<br>3段左：手先追いかけひだを上から通す<br>3段右：(説明なし)<br>4段左：手先リーフヒダ<br>4段右：(説明なし)                                 |
| 31 | 1段左：2008年10月17日<br>1段右：2008年10月17日<br>2段左：2008年10月17日<br>2段右：2008年10月17日<br>3段左：2008年10月17日<br>3段右：2008年10月17日<br>4段左：なし<br>4段右：2008年11月7日         |  | 1段左：タレ先<br>1段右：手 一結び／タレ<br>2段左：お太鼓なしの帯結び<br>2段右：追いひだ／手先追いかけヒダにする<br>3段左：ブレードヒダ小さ目にする①は広目にする ②のヒダは小さく<br>3段右：リーフヒダ<br>4段左：リーフヒダ 石羽根三枚残りお太鼓はタレ先を折り上げて帯ベをする<br>4段右：タレ |
| 32 | 1段左：2008年12月10日<br>1段右：2008年10月17日<br>2段左：2008年12月5日<br>2段右：2008年10月17日<br>3段左：2006年3月<br>3段右：2008年10月22日<br>4段右：2008年10月19日                       |  | 1段左：タレ<br>1段右：同じヒダで置き方が逆バージョン／手／タレ先<br>2段左：手先つばさひだ／タレ先バラ<br>2段右：急ぐ時短縮バージョン<br>3段左：ブルームヒダ<br>3段右：①と同じヒダで右ヒダとお文庫に<br>4段右：手／手／タレ                                      |
| 32 | 1段左：2009年1月12日<br>1段右：2009年1月<br>2段左：2009年1月12日<br>2段右：なし<br>3段左：2009年1月12日<br>3段右：2009年1月12日<br>4段左：2009年1月12日<br>4段右：2009年1月12日                  |  | (説明なし)                                                                                                                                                             |

## 着付け師のライフヒストリー

|    |                                                                                                  |                                                                                   |                                                                                                                                                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 33 | <p>上段左：なし<br/>上段右：なし<br/>中段左：2006年5月<br/>中段右：2005年8月<br/>下段左：なし<br/>下段右：なし</p>                   |  | <p>上段左：(説明なし)<br/>上段右：タレ先／手先ブレードヒダ<br/>中段左：バラ リーフヒダ かいうひだ ブレードヒダ／タレ元／手先／枕をした後に作る／タレ先<br/>中段右：小さ目のバラうら地出す<br/>下段左：タレ追いヒダ／手／タレ元<br/>下段右：お太鼓／手先リーフヒダ(応用) たれ先は先に追いかけてヒダを作り置きし、左の羽根をした後たれ先のヒダを二番目のゴーンにかける</p> |
| 33 | <p>上段左：なし<br/>上段右：なし<br/>中段左：2008年11月5日<br/>中段右：2008年11月<br/>下段左：2008年10月20日<br/>下段右：2006年3月</p> |  | <p>上段左：たれはたれ元〇にして輪の所立矢にしてたれ先は下に降ろして太 手先で三枚リーフ変形万葉ヒダを作る<br/>上段右：手先 タレ元<br/>中段左：手先追いかけてヒダにする<br/>中段右：タレ先<br/>下段左：お太鼓なしの帯結び<br/>下段右：(説明なし)</p>                                                              |
| 34 | <p>上段左：2011年<br/>上段右：2011年<br/>中段左：2011年<br/>中段右：2011年<br/>下段左：2011年<br/>下段右：2011年</p>           |  | <p>上段左：手先バラ／タレ先追いヒダを作りゴムに通す(つばさヒダに似た様になる)<br/>上段右：たれ先／手先／手先／お太鼓<br/>中段左：追いかけてヒダ<br/>中段右：ちょうちょ／手／タレ<br/>下段左：バラ<br/>下段右：二枚万葉ヒダ</p>                                                                         |